

(様式2)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	13	学校名	宇都宮市立峰小学校
----	---------------	------	----	-----	-----------

令和2年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 国語は、「話すこと・聞くこと」で4年が市の平均を0.5%、5年は3.9%上回り、6年は同程度であった。これまで学校課題に「コミュニケーション能力の育成」を掲げ取り組んできたので、相手を意識して話したり聞いたりすることにおいてはある程度成果は見られた。しかし、「書くこと」において6年の全国学力・学習状況調査は市の平均と同程度であったものの、4、5年の学力調査においてはそれぞれ4.8%、8.9%、6年の学習内容定着度調査においては8.7%下回った。今後は、考えの共通点や相違点を整理し、題意に沿って分かりやすく書く力を高めるられるように指導していく必要がある。
- ・ 算数は、「数と計算」の領域で6年が「全国学力・学習状況調査」、「学習内容定着度調査」で市の平均をそれぞれ1.3%、1.2%下回った。一方、「とちぎっ子学習状況調査」で4年は3.6%、5年が9.4%上回った。観点では、「数学的な考え方」が6年が「全国学力・学習状況調査」では市の平均と同程度、「学習内容定着度調査」では1.9%下回った。「とちぎっ子学習状況調査」で4年は2%、5年は4.7%上回った。今後更に、学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定していく。
- ・ 社会は、6年が「国土の様子」「情報産業や情報化社会」で市の平均を上回り「農業や水産業」「工業生産」「日本の歴史」で市の平均を下回った。今後も、基礎的な事項をしっかりと押さえ、自分の考えを深めるための話し合い活動を取り入れた授業を展開していく。
- ・ 理科は、「物質とエネルギー」において、6年が市の平均と同程度、5年が2.6%上回った。また、「科学的な思考・表現」領域では、すべての学年が市の平均を上回った。観察・実験器具に触れる機会を確保し、観察・実験の結果を基に、判断した根拠や理由を説明できるようにする。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「授業の始まりには席に着いている」「話を最後まできちんと聞いている」については、ほぼ全学年において肯定割合が90%以上だった。「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめている」の肯定割合は、多くの学年で市の平均を上回った。また、「グループなどでの話し合いに進んで参加している」については、市の平均を下回る学年もあるものの、多くの学年が市の平均を上回っていて、昨年度に比べても肯定割合が増えている。学校課題である「コミュニケーション能力の育成」の取組としての成果が少しずつ形になってきている。引き続き、地域学校園内で共通して、「授業開始前に次の学習準備」「あいさつ（語先後礼）」「返事」を重点的に指導し、よい学習習慣が身に付くように努めるとともにコミュニケーション能力の更なる育成に努める。
- ・ 「宿題はきちんとやり、期限までに提出する」は、ほぼ全学年で肯定割合が90%を上回った。「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合が市の平均を大きく上回った。また「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」については、学年により多少差はあるものの市の平均を上回った。今後より一層家庭と連携し、家庭学習を推進することにより、確かな学力の定着を図る。

(3) 授業等への取組状況から

全体的に授業への関心・意欲が高く、課題に真面目に取り組む。また、自分の意見を発言しようとする意欲も高く、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」と回答する児童も多い。また、「ものごとを比べながら考えることができる」、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えることができる」と回答する児童も多いことから、客観的に物事を考える力はついてきたと考えられる。しかし、相手意識をもって分かりやすく話したり、相手の意図を考えながら内容を聞き取ったりし考えを深める力は十分に育っているとは言えない。このような状況から、引き続き、他者との対話を通して、物事を多面的・多角的に考える力を伸ばすため、「コミュニケーション能力の育成」を学校課題とし、取り組んでいく。

2 今年度の重点目標

- (1) 地域学校園：「自ら進んで表現できる児童の育成」
- (2) 峰小学校：「コミュニケーション能力の育成」～「考え、議論する」道徳授業を目指して～

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

- (1) 基礎・基本の確実な定着を目指した日々の学習とまとめの学習の充実
 - 地域学校園統一の掲示資料の活用や、教材を活用した聞き取り、発声のトレーニングと適切な評価による話の聞き方、話し方の技能向上（通年）
 - ・ ノートの使い方や発表の仕方などの基本的学習技能の定着（通年）
 - ・ 「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開と個に応じた指導の充実（通年）
 - 目標やめあてに基づき学んだことを振り返る活動の充実と振り返りを意識した学習展開の工夫（通年）
 - 「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した日々の学習とまとめの学習の充実（通年）
 - 「学習の約束」を活用した次の授業の準備、チャイム着席、返事、授業開始終了の挨拶（語先後礼）の徹底（通年）
 - ・ 漢字・計算定着のためのステップアップシートの活用、朝の学習での反復練習（通年）
 - ★□ 「家庭学習の手引き」の活用や「家庭学習がんばり週間」の実施による家庭学習の習慣化
 - ★□ 各種学力調査結果を踏まえての復習やまとめの学習の実施（通年）
- (2) 読書活動の充実
 - 朝の読書タイムの確実な実施による読書活動の推進（週2回）
 - 読書の推奨や自分の読書活動を振り返る「みね読書人」の取組（通年）
 - ・ 読み聞かせボランティア（モーニングブック）による読書活動の推進（週1回）
- (3) 「コミュニケーション能力の育成」を図るための授業研究
 - 自分の考えをもった上で、友達と積極的に意見を交流し、自らの考えを修正したり深めたりできるよう、協働して課題に取り組む態度の育成（通年）
 - ★○ 望ましい人間関係に根差した「考え、議論する」道徳の授業研究（通年）
 - コミュニケーション能力の育成を目指した「一人一授業」の公開（通年）
- (4) 家庭・地域との連携・協力
 - ・ 保護者懇談会における、学習内容定着度調査、学習と生活についてのアンケートの結果を生かした学習指導の説明及び家庭学習の大切さについての啓発
 - ・ 「街の先生」、宇都宮大学のボランティアなどの協力を得た授業や学習支援の実施
 - ・ 宮っ子ステーション「峰の寺子屋」の実践活動
 - ・ 学校支援ボランティアの活用（学習支援、環境整備、安全指導等）